

暗唱のすすめ

〈近代文学編③〉

さんしょうだゆう
山椒大夫

もり
森 鷗外



えちご かすが へ いまづ で みち めずら たびびと ひとむれ ある イ
越後の春日を経て今津へ出る道を、珍しい旅人の一群が歩いてる

はは さんじっさい こ おんな ふたり こども つ イ あね
る。母は三十歳を踰えたばかりの女で、二人の子供を連れてる。姉

じゅうし おとうと じゅうに しじゅうぐらい じよちゆう ひとりつ くたび
は十四、弟は十二である。それに四十位の女中が一人附いて、草臥

はらからふたり やど つき いッ はげ
れた同胞二人を、「もうじきにお宿にお着なさいます」と云つて励ま

ある
して歩かせようとする。